

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	1970101554		
法人名	株式会社ユニマツそよ風		
事業所名	甲府ケアセンターそよ風		
所在地	甲府市富竹3-3-5		
自己評価作成日	平成24年12月13日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=19">http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=19</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	山梨県社会福祉協議会		
所在地	甲府市北新1-2-12		
訪問調査日	平成25年	1月29日	

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

ご家族の介護負担軽減を図る目的で、内科・皮膚科の往診をしていただいている。また必要な方には職員付き添いの精神科受診もしており身体の変化に迅速に対応している。  
月一度の夕食ではミキサー食の方でも食べられるようにお店の方へお願いしフードプロセッサーを持ち込ませてもらっている。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

芸術の森、美術館や博物館の裏通りにある。近所に各種スーパーもあり便利で明るい2階建ての事業所である。東京を本社に幅広く高齢者福祉関係事業を行い1階はデイサービスを受け入れリハビリに取り組み利用者の機能回復に努めている。また車椅子で入浴できるチェアインバスや大きなミネラル温泉がある。和風玄関の扉を開けると家庭を演出したボードがあり、にこやかな笑顔の利用者の絵が迎えてくれる。2階が2ユニットのグループホームで段差のない広々としたスペースに工夫を凝らした配置でみんなの顔が見えて働きやすいようにキッチンや事務所がある。利用者の心に寄り添いコミュニケーションを図りながらサービスと質の向上に努めている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

事業所名 甲府ケアセンターそよ風

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名( までしこ )	ユニット名( ふじざくら )	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社で作成した「そよ風憲章」という理念がありそれに基づいた支援ができるよう、全職員の意識の共有を図るようにしている。	会社で作成した「そよ風憲章」という理念がありそれに基づいた支援ができるよう、全職員の意識の共有を図るようにしている。	住み慣れた地域で安心な生活が送れるように心がけている。高齢社会で果たす役割と重大性を自覚し「明るく元気で健やかなヒューマンライフを支える」を理念に朝礼で復唱して実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一人として日常的に交流している	地域の自治会活動の河川清掃などに参加したり、入居者様と夏祭りなどにも参加している。すぐご近所から入所された入居者様があり、ご近所の方が様子を伝えに来て下さったりと家にいるときと変わらないお付き合いをしている。	地域の自治会活動の河川清掃に参加したり、地域の方々へ炊き出しを行い事業所との関わりを持っている。両フロア共、散歩などに出掛けたときにはご近所の方々から気さくに声を掛けて下さっている。	自治会に加入して朝は地域のゴミ拾いをしたり河川清掃に協力している。デイサービスと共に子供たちの音楽会やボランティアの訪問を受け盆踊りや餅つきなどでふれあいを深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ご近所の方が直接施設に出向き介護の相談をケアマネージャーにしたりしている。また芋煮会を開設以来初めて行い、ご近所の方々にも参加して頂き、施設内を案内しながらグループホームの特色を理解して頂いたように思う。	ご近所の方が直接施設に出向き介護の相談をケアマネージャーにしたりしている。また芋煮会を開設以来初めて行い、ご近所の方々にも参加して頂き、施設内を案内しながらグループホームの特色を理解して頂いたように思う。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	包括、地区民生委員、家族代表、GH職員で二ヶ月に一度開催。運営推進会議で出た意見はすぐにフロアの職員へおろし改善できるところは改善し、よりよい介護に繋げている。	包括、地区民生委員、家族代表、GH職員で二ヶ月に一度開催。運営推進会議で出た意見はすぐにフロアの職員へおろし改善できるところは改善し、よりよい介護に繋げている。	2カ月に1度開催する会議で出席者は10名位。家族からの意見で行事に参加したいとの希望があり全員の家族に連絡をし都合のつく家族は参加するようになった。ノロウイルス対策で温度測定機を家族の意見で購入し役立てている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	相談事があるときはまず包括に相談している。それでも解決しない時などは、直接市役所に相談している。	相談事があるときはまず包括に相談している。それでも解決しない時などは、直接市役所に相談している。	介護保険制度の件や解からない事は市の保健課に問い合わせたり、訪問し資料を貰ったりしている。地域包括支援センターと連携を取りながら公助の力を借りながらの運営に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行っていない。やむを得ない場合はご家族より承をとり経過記録をとるようにしている。また玄関の施錠については、玄関が交通量の多い道に面している為、安全面確保の面から内側から出られないようになっているが希望があれば職員が付き添い外出可能になっている。	身体拘束は行っていない。やむを得ない場合はご家族より承をとり経過記録をとるようにしている。また玄関の施錠については、玄関が交通量の多い道に面している為、安全面確保の面から内側から出られないようになっているが希望があれば職員が付き添い外出可能になっている。	2カ月に1度、身体拘束や虐待防止の委員会を開催している。「あなたは車椅子に1日中座っていられますか？」など委員会終了後レポートを提出して話し合いをしている。2ユニットで施錠はなく自由に出入りでき開放的である。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内の虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待はしていない。センター内に身体拘束・虐待防止委員会を設置し、より良い介護に繋がられるよう勉強会などを開催している。	虐待はしていない。センター内に身体拘束・虐待防止委員会を設置し、より良い介護に繋がられるよう勉強会などを開催している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度の研修などに管理者やケアマネなどが参加しており、各職員に制度の説明など適宜行っている。	成年後見制度の研修などに管理者やケアマネなどが参加しており、各職員に制度の説明など適宜行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は入居者、ご家族に十分に時間をとって頂き納得がいくまで説明し、不明な点がないよう理解・納得していただいている。入居後も不明な点があればその都度答えるようにしている。	契約の際は入居者、ご家族に十分に時間をとって頂き納得がいくまで説明し、不明な点がないよう理解・納得していただいている。入居後も不明な点があればその都度答えるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(なでしこ)	ユニット名(ふじくら)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃から利用者や家族とは意見交換がしやすい雰囲気が出ています。また運営推進会議で出した意見などはすぐに取り入れよりよい介護に結び付くようにしている。	日頃から利用者や家族とは意見交換がしやすい雰囲気が出ています。また運営推進会議で出した意見などはすぐに取り入れよりよい介護に結び付くようにしている。	入居の時に家族の意見や要望を聞いている。面会に来て寒いので毛布を2枚にして欲しいとか湯たんぽ、レッグウォーマーの使用などの気軽な意見があり取り入れより良い改善に繋げている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各部署のリーダーが集まるリーダー会議やGH各フロアで行われるフロア会議、全職員が参加する全体会議が行われ、職員の意見等聞き、皆で共有し運営に反映させるようにしている。	各部署のリーダーが集まるリーダー会議やGH各フロアで行われるフロア会議、全職員が参加する全体会議が行われ、職員の意見等聞き、皆で共有し運営に反映させるようにしている。	玄関が殺風景なので明るい雰囲気の工夫を提案し利用者と一緒にボードを作成した。来客者から明るくなったと好評である。必要品は稟議書をあげて購入でき、希望の休みも対応している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	施設長、管理者等は各職員の良い面を把握し、より伸ばしていけるように声かけ・指導している。また各職員の労働条件など把握し、働きやすい職場になるように心掛けている。	施設長、管理者等は各職員の良い面を把握し、より伸ばしていけるように声かけ・指導している。また各職員の労働条件など把握し、働きやすい職場になるように心掛けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	フロア会議、全体会議で適宜勉強会を開催している。また法人内外の勉強会にも積極的に参加してもらっている。資格取得にも、積極的に推進している。	フロア会議、全体会議で適宜勉強会を開催している。また法人内外の勉強会にも積極的に参加してもらっている。資格取得にも、積極的に推進している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同法人内のセンターとは勉強会等開催して情報交換などを行い交流を図っている。また食事会なども適宜開催している。	同法人内のセンターとは勉強会等開催して情報交換などを行い交流を図っている。また食事会なども適宜開催している。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者ご本人とは納得がいくまで十分にお話をし不安がないようにしたうえで、サービスの導入をして頂いている。	利用者ご本人とは納得がいくまで十分にお話をし不安がないようにしたうえで、サービスの導入をして頂いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族とも、各サービスについて納得がいくまで十分にお話し、不安な点がない状態で利用して頂けるようにしている。	ご家族とも、各サービスについて納得がいくまで十分にお話し、不安な点がない状態で利用して頂けるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	納得がいくまで話し合いをし、なるべく多くの情報を調べ、必要な医療面・物質面などの見極め導入し、グループホームでの生活が快適に行えるようにしている。	納得がいくまで話し合いをし、なるべく多くの情報を調べ、必要な医療面・物質面などの見極め導入し、グループホームでの生活が快適に行えるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者同士楽しく生活できるように職員が中に入り関わりが持てるようにしている。また利用者や職員も、家族のように温かい関係でいられるようにフレンドリーに接し、楽しく過ごせるようにしている。	利用者同士楽しく生活できるように職員が中に入り関わりが持てるようにしている。また利用者や職員も、家族のように温かい関係でいられるようにフレンドリーに接し、楽しく過ごせるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(なでしこ)	ユニット名(ふじぐら)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族には、月に一回新聞と手紙で利用者の様子を伝えている。また面会時や電話などでも常に情報交換し、家族にも介護に携わって頂けるようにしている。	家族には、月に一回新聞と手紙で利用者の様子を伝えている。また面会時や電話などでも常に情報交換し、家族にも介護に携わって頂けるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会は自由に行えるので、今までの友人や近所の方にも来ていただけるようにしている。馴染みの場所への支援は、ご家族にも介護に関わって頂きたいという観点からご家族にお願いしている。	面会は自由に行えるので、今までの友人や近所の方にも来ていただけるようにしている。馴染みの場所への支援は、ご家族にも介護に関わって頂きたいという観点からご家族にお願いしている。	馴染みの友人がデパートに誘いに来たり展示会や新年会に出掛ける支援をしている。手紙や電話も心やすく取り次ぎ利用者との関係がとぎれないように大切に支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士でうまく話が出来ない場合は、職員が中に入りスムーズに会話できるように気を配っている。仲が良い方は隣同士にするなど配慮し、楽しく過ごせるようにしている。	利用者同士でうまく話が出来ない場合は、職員が中に入りスムーズに会話できるように気を配っている。仲が良い方は隣同士にするなど配慮し、楽しく過ごせるようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても、必要があれば相談・支援に応じている。	サービスが終了しても、必要があれば相談・支援に応じている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人が希望が言える場合にはご家族とも相談し、可能な限り希望を聞き入れる努力をしている。また希望が言えない方は、今までの生活歴や家族からの情報などを収集しご本人の希望に沿えるようなケアを心がけている。	ご本人が希望が言える場合にはご家族とも相談し、可能な限り希望を聞き入れる努力をしている。また希望が言えない方は、今までの生活歴や家族からの情報などを収集しご本人の希望に沿えるようなケアを心がけている。	お酒の好きな利用者にお風呂あがりビールに真似たお茶を出すなど「あ～旨いもう一杯」と気分を味わう大切さなど小さな事の喜びを把握しながら支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活歴や趣味、家族関係など極力情報収集を行い、ご本人の今までの暮らしの把握をし、グループホームでも家で過ごしているときと同じような生活が出来るようにしている。	これまでの生活歴や趣味、家族関係など極力情報収集を行い、ご本人の今までの暮らしの把握をし、グループホームでも家で過ごしているときと同じような生活が出来るようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	大まかなこと(食事、入浴など)は決まっているが、あとはあまり決まり事を作らず、自由にのんびりと自分のペースで過ごせるようにしている。	大まかなこと(食事、入浴など)は決まっているが、あとはあまり決まり事を作らず、自由にのんびりと自分のペースで過ごせるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に一回のフロア会議で各利用者のカンファレンスを行っている。また家族にも必要に応じ電話連絡を行い、意見を聞き、介護計画に反映させるようにしている。	月に一回のフロア会議で各利用者のカンファレンスを行っている。また家族にも必要に応じ電話連絡を行い、意見を聞き、介護計画に反映させるようにしている。	会社独自の介護援助計画書を居室担当者に記入してもらい利用者の状況を把握しフロア会議で話し合い介護計画に反映させている。モニタリングは記録や話し合いの中で計画担当者が作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人の記録には簡単だが様子が分かるように細かく記入し、どの職員が見ても分かるようにしている。また全体の介護記録や、引き継ぎノートなどもあり、様子が分かるようにしている。	個人の記録には簡単だが様子が分かるように細かく記入し、どの職員が見ても分かるようにしている。また全体の介護記録や、引き継ぎノートなどもあり、様子が分かるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(なでしこ)	ユニット名(ふじざくら)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その都度の希望には、柔軟に対応できるようにしている。	その都度の希望には、柔軟に対応できるようにしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	なるべく近所の理容店やスーパーなど利用し、顔なじみの関係でいられるよう努めている。また、地域の方にも施設の行事などお誘いしたりもしている。	なるべく近所の理容店やスーパーなど利用し、顔なじみの関係でいられるよう努めている。また、地域の方にも施設の行事などお誘いしたりもしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には在宅と同じ主治医に家族対応で受診して頂いているが、家族対応が困難な方の為、内科・皮膚科の往診がある。夜間不眠などで精神科にかかっている方も多く、普段の様子を事細かに説明しなければ薬の処方難しいため、職員対応にて受診を行っている。	基本的には在宅と同じ主治医に家族対応で受診して頂いているが、家族対応が困難な方の為、内科・皮膚科の往診がある。夜間不眠などで精神科にかかっている方も多く、普段の様子を事細かに説明しなければ薬の処方難しいため、職員対応にて受診を行っている。	内科医と皮膚科医が月に1度往診に来て診察している。かかりつけ医の受診は家族対応で行い薬の投与など医師の連絡を家族から担当者が受けつぎ健康管理に努めている。状況により職員が受診支援する場合もある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携加算を取っており、看護師が常勤で勤務している。必要に応じて看護師に相談し、適切な病院受診に繋げている。	医療連携加算を取っており、看護師が常勤で勤務している。必要に応じて看護師に相談し、適切な病院受診に繋げている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した場合、適宜面会等伺っている。また、カンファレンスが行われる際には出席し、情報の把握に努めている。	利用者が入院した場合、適宜面会等伺っている。また、カンファレンスが行われる際には出席し、情報の把握に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	今のところ看取りは行っていないがご家族とも日頃から終末に向けての話し合いは常に行っている。また日々のバイタルチェックを欠かさず行い少しでも変化があれば通院等の処置をとっている。往診の内科医とも連携し入院できる病院を紹介してもらうようにしている。	今のところ看取りは行っていないがご家族とも日頃から終末に向けての話し合いは常に行っている。また日々のバイタルチェックを欠かさず行い少しでも変化があれば通院等の処置をとっている。往診の内科医とも連携し入院できる病院を紹介してもらうようにしている。	看取りは行っていないが、ターミナルケアについては入居時に利用者と家族に説明をして理解を得ている。緊急時には往診してくれる主治医と看護師がいる。利用者と家族、医師と職員のチームで寄り添える支援ができるよう勉強している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全体会議などで急変時における対応等の勉強を定期的に行っている。	全体会議などで急変時における対応等の勉強を定期的に行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	半年に一回、避難訓練を開催。その時により、昼の設定、夜の設定にして行っている。また非常時のお願いはしており、協力が得られるようにしている。	半年に一回、避難訓練を開催。その時により、昼の設定、夜の設定にして行っている。また非常時のお願いはしており、協力が得られるようにしている。	年2回、昼間と夜間を想定して訓練をしている。消防署からの応援で消火器の使い方やベランダに避難する訓練を実施している。3日分の食糧や備品の用意もある。2階なので非常階段から降りる訓練もしている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりのペースに合わせて無理強いせず、ゆったりとした介護を心がけている。利用者は一人の大人であることを十分理解し丁寧な声かけ、対応を心がけている。	一人ひとりのペースに合わせて無理強いせず、ゆったりとした介護を心がけている。利用者は一人の大人であることを十分理解し丁寧な声かけ、対応を心がけている。	人生の先輩である事を常に意識してその人にあつた声かけをしている。ゆったりとした介護に心がけ部屋に入る時の声かけや着替えの時の羞恥心に配慮している。	

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(なでしこ)	ユニット名(ふじざくら)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者自身がはっきり希望を言える方には希望を伺っているが、希望を言えない方にはキーパーソンに意見を伺うなど希望に沿った自己決定が出来るようにしている。	利用者自身がはっきり希望を言える方には希望を伺っているが、希望を言えない方にはキーパーソンに意見を伺うなど希望に沿った自己決定が出来るようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事、入浴の時間は、職員の配置の都合で決まっているが、それ以外はお本人のペースに合わせて生活できるようにしている。	食事、入浴の時間は、職員の配置の都合で決まっているが、それ以外はお本人のペースに合わせて生活できるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の希望に合った服装、おしゃれが出来るように支援している。	ご本人の希望に合った服装、おしゃれが出来るように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事形態については、嚥下困難な方もいるためミキサー食にしたりキザミ食にしたりとその方にあった形態で提供している。お手伝い出来る場所は利用者様にもして頂き、一緒に食事の準備、片付けをするようにしている。	食事形態については、嚥下困難な方もいるためミキサー食にしたりキザミ食にしたりとその方にあった形態で提供している。お手伝い出来る場所は利用者様にもして頂き、一緒に食事の準備、片付けをするようにしている。	女性が多く、食事の準備や片づけを率先して手伝ってくれるので当番制にしている。自分の茶碗、箸、湯呑みを使用している。調理の時の匂いや食器の音、楽しいおやつ作りなど食の感心を深める支援に努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は本社の栄養士が考えた献立を調理している。高齢者の栄養を考慮した献立であり、利用者の嚥下状態に合わせた献立を提供している。	献立は本社の栄養士が考えた献立を調理している。高齢者の栄養を考慮した献立であり、利用者の嚥下状態に合わせた献立を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行い出来ないところは手伝っている。近所に歯科もあるので何かトラブルがあればすぐ通院できるようになっている。	毎食後、口腔ケアを行い出来ないところは手伝っている。近所に歯科もあるので何かトラブルがあればすぐ通院できるようになっている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	時間を見ながら定期的にトイレ誘導している。なるべくトイレで排泄できるように支援している。	時間を見ながら定期的にトイレ誘導している。なるべくトイレで排泄できるように支援している。	チェックシートを記入して自立支援に努めて布パンツに変わった利用者もいる。尿とりパッドの利用者はさりげなく誘導、声かけをしている。車椅子の利用者も広い介護トイレを使用して排泄の自立支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維質の多い食品を取ったり、水分を多く摂取したりしている。それでも便秘があるようなら、主治医に相談し、下剤など処方して頂いている。	繊維質の多い食品を取ったり、水分を多く摂取したりしている。それでも便秘があるようなら、主治医に相談し、下剤など処方して頂いている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴時は元気な方でも転倒などの危険性があるため、時間だけは職員の多い時間と決めているが、回数はご本人の希望に合わせて毎日入浴でも可能です。	入浴時は元気な方でも転倒などの危険性があるため、時間だけは職員の多い時間と決めているが、回数はご本人の希望に合わせて毎日入浴でも可能です。	入浴は職員の多い日中に希望を聞いて行う。1週間に3、4回で拒否をする利用者は「温泉に行きませんか？」と1階のミネラル温泉に誘ったり気分転換を図り無理をしない入浴の支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(なでしこ)	ユニット名(ふじざくら)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間も各自の自由だが、夜間不眠で困っている方などは精神科を受診して頂きその方に合った眠剤など処方して頂いている。	就寝時間も各自の自由だが、夜間不眠で困っている方などは精神科を受診して頂きその方に合った眠剤など処方して頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書などしっかり読み何の薬かをしっかり把握するようにしている。また不明な点は看護師に聞いたり本で調べたりしている。	薬の説明書などしっかり読み何の薬かをしっかり把握するようにしている。また不明な点は看護師に聞いたり本で調べたりしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人の得意なことは積極的にやってみようとしている。認知症があるのでなかなかじっくり取り組めないことも多いが職員は励ましたり手伝ったりしながら支援しています。	ご本人の得意なことは積極的にやってみようとしている。認知症があるのでなかなかじっくり取り組めないことも多いが職員は励ましたり手伝ったりしながら支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物や散歩などは日課であり、天気が良ければ出掛けるようにしている。また、季節の花見や初詣、食事会などにも利用者と職員とで出掛けている。遠い所へはご家族にお願いしている。	買い物や散歩などは日課であり、天気が良ければ出掛けるようにしている。また、季節の花見や初詣、食事会などにも利用者と職員とで出掛けている。遠い所へはご家族にお願いしている。	春には梅の花見やイチゴ狩り、秋はぶどう狩り紅葉見物に出掛ける。外出は5感を活かし脳の活性化の為に大変よいので車椅子の利用者もリフト車と一緒に行く。家族も同行で楽しいひとときとなる。回転ずしやファミリーレストランも利用している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が出来る利用者がいないためお小遣いは事務所の金庫にて一括管理している。金銭管理が出来る利用者であれば、ご本人が管理することも可能です。	金銭管理が出来る利用者がいないためお小遣いは事務所の金庫にて一括管理している。金銭管理が出来る利用者であれば、ご本人が管理することも可能です。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話・手紙の希望があればいつでも支援しています。	電話・手紙の希望があればいつでも支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースには季節感のある装飾をし、温度も適温になるように気をつけている。車椅子の方も多いので通路は余分なものを片づけて広々とした雰囲気となるように心掛けている。	共有スペースには季節感のある装飾をし、温度も適温になるように気をつけている。車椅子の方も多いので通路は余分なものを片づけて広々とした雰囲気となるように心掛けている。	広いフロアに大きなテーブルがある。射し込む朝日に白いカーテンが揺れる。ゆったりと寛げるソファが左右にありテレビがある。壁に利用者の行事の写真が飾られている。利用者が大事に育てている花は芽を出し水槽で泳ぐ金魚も生きる勇気を注いでくれる共有の安らげる場が伺える。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースには一人ひとりになれる空間はないが、思い思いに各自で過ごされており利用者同士で楽しく過ごされている。	共有スペースには一人ひとりになれる空間はないが、思い思いに各自で過ごされており利用者同士で楽しく過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の使い慣れた家具などを持ち込んで頂き、家にいるときと同じようにリラックスして過ごしていただけるようにしている。	ご本人の使い慣れた家具などを持ち込んで頂き、家にいるときと同じようにリラックスして過ごしていただけるようにしている。	6畳の洋室の部屋に備え付けのタンスとカウンター、カーテンがある。位牌があり小さな花瓶に花、家族の写真や寄せ書き手紙がある。カレンダーや着なれた洋服があり個性的な部屋に居心地の良さが伺える。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	グループホームの玄関は安全面を考慮して中からは出られないようになっているが共有スペースや各居室などはバリアフリーで自由に行き来が出来るようになっており、思い思いに過ごされている。	グループホームの玄関は安全面を考慮して中からは出られないようになっているが共有スペースや各居室などはバリアフリーで自由に行き来が出来るようになっており、思い思いに過ごされている。		